

企業誘致

～民間企業と共にまちを育む

News Letter

Vol.42

第13回指定企業交流会を行いました

企業誘致

高度なごみ処理技術のクリーンセンター多摩川視察



◆くにとちの燃えるごみを処理する施設

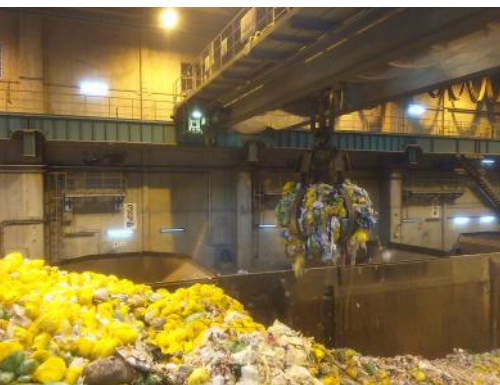
平成31年2月21日（木）指定企業交流会を実施し、稲城市にある「クリーンセンター多摩川」を訪問しました。クリーンセンター多摩川は、国立市・稲城市・狛江市・府中市の4市が加入する「多摩川衛生組合」が運営する可燃ごみ焼却処理施設で国立市の燃えるごみを処理しています。

◆24時間365日休まず稼働



管理棟セミナールームで施設概要の説明を受けDVDを視聴。約850度の高温で3基の焼却炉（常時1基は点検）で焼却処理してます。徹底した環境保全対策が施され、余熱有効利用（サーマルリサイクル）で、近くの稲城市立病院や健康プラザに高温水を供給しています。焼却灰はエコセメントの原料として全量がリサイクルされています。約80名のスタッフで24時間365日休まずごみ処理が行われています。

◆息をのむ。巨大なごみピット



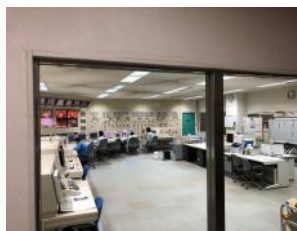
セミナールームを出て、最初に見たのは圧倒されるほどの膨大なごみの量。焼却前に一時的にごみをためておくごみピットの大きさは25mプールの約25倍あり、4500トンのごみが貯められます。ピットには各市のカラフルな袋に入ったごみの山・山・山。この山のごみをつかみ、焼却炉に投入するのがごみクレーン。クレーンはごみ収集車1台分のごみをひとつかみで動かします。クレーンは燃えやすいようにごみの攪拌もしています。頑丈なガラスで仕切られ、見学者側と処理側は分離されていますので、臭いはまったくしません。参加者からは活発な質問が出ました。



Q：「生ごみが発火する心配は無いかな？」

A：「およそ1か月に1度は発火し、その都度職員が水ホースで消化する。誤って捨てられたりリチウムイオンなどの充電式電池が発火しやすく、消防署に出動してもらうこともある」

◆高度な自動化システム



焼却プラントの安全性や省力化を図るため、高度な自動化システムが採用され、減温塔やろかしきしゅうじんき しょくばいだっつちそうち 濾過式集塵機、触媒脱窒装置により、ダイオキシンの発生を抑制しています。中央制御室ではコンピュータ制御で施設全体の監視をしています。

◆焼却炉の敵は不燃物！

鉄アレイ、石、ガスボンベの容器など、燃えるごみに混ざっていた不燃物が展示されてました。焼却炉を損傷する原因になるとのこと。おしぼりレンタルを行っている参加者からは、「返却されたおしぼりの中に一緒に洗っては機械の故障の原因となるものなどが混ざることがある。同じ悩みだと共感する部分があった」とのコメントがありました。

◆ごみ処理施設は発電所でもある

ごみを燃やすときに出る熱を利用し、蒸気タービンを回して発電をしています。最大で6千キロワットの電気を作ることができ、場内の電気すべてを賄っており、余った電気は東京電力に売っているとのことでした。

◆視察を終えて

参加者からは「非常に有意義な体験だった」「技術が進歩し、特に環境への配慮には感心した」「バスでの相互紹介は趣味や人柄が聞けて親密度が増した」などの好意的な感想をいただきました。今後も指定企業間で交流や情報交換、視察などを行い、地域経済の活性化やまちづくりに役立てていきます。